

# Randy Ingram & Aubrey Johnson

## [Profile]

### オーブリー・ジョンソン Aubrey Johnson : vo



パット・メセニーの盟友ライル・メイズを叔父に持ち、音楽一家で育ち幼少時よりシンガーを目指していた。

西ミシガン大学で「ヴォーカル・ジャズ・アンサンブル」、「クラシックとジャズ・ヴォーカル」を学び、ダウンビートのコリジェイト・ステューデント・ミュージックアワードで「ベスト・ジャズ・ヴォーカル」を受賞する。2007年には若くしてロン・ディ・サルビオ (p) とジミー・コブ (ds) のアルバムに特別参加を果たすなど注目を集める。その後、ボストンのニューイングランド音楽院に移った後は、叔父でもあるライル・メイズとの共演やボビー・マクファーリンの2010年に録音したグラミー賞ノミネート作品『VOCABularies』に参加するなどの活動を始める。

2011年からニューヨークに移り、ブルーノート、ジャズギャラリー、ロックウッドミュージック・ホール他で活動している。他に、アルトゥーロ・オファリルの2020年グラミー賞-受賞アルバム「Four Questions」ライル・メイズの遺作で2021年グラミー賞受賞録音「エバーハルト」に参加している。(2022年の受賞式には叔父ライル・メイズの代理として出席し受賞コメントを残している)

過去にはフレッド・ハーシュ、サラ・セルバ、トラヴパットイス・サリヴァンズ・ビョークストラ他とも共演。

現在、ニューヨークでは知らないものがない実力派シンガーであり、多くのレコーディングやライブ活動の他に、ボストンのパークリー音大で声楽を、ニューヨーク市立大学クイーズ校でジャズ・マスタープログラムを教えている。ダイアン・リーヴス、ジョニ・ミッチェル、ビョーク、ダーティー・プロジェクトス、そしてブラジル音楽に影響を受ける。

2017年に、エグゼクティヴ・プロデュースにライル・メイズ、オーブリーとの共同プロデュースはスティーヴ・ロドビーが担当した彼女のデビュー作「Unraveled」をレコーディングする。

<https://www.aubreyjohnsonmusic.com/>

### ランディ・イングラム Randy Ingram : piano



アラスカ州アンカレッジ生まれ。

家族と共にカリフォルニア州ラグナビーに移り4歳の頃にピアノを始める。

高校時代にクラスメートのベーシスト/Billy Mohlerと将来のKneebodyドラマー/Nate Woodと一緒にピアノ・トリオを結成し十代の若さで熟練した演奏を行う。

高校卒業後、奨学金を得て南カリフォルニア大学に学ぶ。

大学ではジョー・ラ・バルベラ、ティアニー・サットン、ビリー・ヒギンズ等に指導を受ける。

卒業後、奨学金を得てボストンのニューイングランド音楽院に入学し、フレッド・ハーシュとダニロ・ペレスに指導を受け修士号を取得する。

彼を指導したフレッド・ハーシュは「ランディ・イングラムは、繊細さ、思慮深さ、そして情熱を持って演奏する」と言っている。

2003年にブルックリンに移り、すぐにJoel Frahm、Ben Monder、Kendrick Scott等と仕事を始める。

2007年には「ASCAP Young Jazz Composer's Award」を受賞し、2年後にJohn Ellis、Matt Clohesy、Jochen Rueckertをメンバーに初リーダー作「The Road Ahead」をリリース。

2014年には、マイク・モレノ (g)、Matt Clohesy (b)、Jochen Rueckert (ds) が参加した「Sky/Lift」をリリースする。

2017年に、ベーシストのDrew Gressとデュオ「The Wandering」をリリースする。

また、モニカ・ゼターランドの自伝映画「Monica Z」(邦題/ストックホルムでワルツを)で尊敬するビル・エバンス役で出演して話題となる。ニューヨーク・ジャズシーンの先導者で詩的なピアノで注目を集める。

**名匠フレッド・ハーシュも賞賛するピアニスト！**